

ぶんごわ〜るど Bungo World

『ぶんごわ〜るど』は、大分県在住の青年海外協力隊経験者組織である大分県青年海外協力協会の会報誌です。この会報では、主に、協会の活動やOB OG隊員の帰国後の活動の様子、現在海外へ派遣されている隊員からの活動報告を掲載しています。かつて豊後(Bungo)の国と呼ばれていた大分県から世界(World)へ雄飛した若者達の活躍ぶりを是非ご一読ください。

information

大分県青年海外協力協会は 中西麻耶さんを応援しています!!

今年の東京オリンピックに向けて世間は大変沸いています。皆さんの中にはチケットに当選され、今夏は東京で過ごす方もおられるかも知れません。そこで、是非東京パラリンピックにも注目していただきたいと思います。その理由は、なんと皆さんご存知陸上の中西麻耶選手のお母様は、青年海外協力隊

OGだからです！大分県出身の中西みどりOGは、昭和53年度1次隊にて理数科教師としてフィリピンへ派遣されていたとのことです。より中西選手を身近に感じられますね。東京パラリンピックは、2020年8月25日から9月6日までの開催予定です。皆さん、是非応援を宜しくお願いします!!



『しちやがちゃガーナLIFE♪』

2018年度4次隊
【派遣期間：2019年4月～2021年4月】
ガーナ・保健師

木 津 史 恵（竹田市出身）

みなさん、初めまして。お世話になった皆様にはご無沙汰しております。2018年度4次隊としてガーナ北部のアップーウエスト州に派遣されている保健師の木津史恵です。

ガーナ北部というと、乾燥し、風が強く、砂埃がひどいことで有名です。そんな北部で貴重なもの、それは水。もちろん上水道は整備されておらず、多くの人は地区共有の井戸（ない所はため池）に水を汲みに行くか、水会社から水を買ってタンクに入れて使っています。私も買っているのですが、水が切れてもすぐには来てくれないので、節水を心がけ、バケツ一杯で全身シャワーが出来るようになりました。

た。タンクには蓋があるのですが、いつの間にか突風で蓋が吹き飛ばされ、タンクの中に虫も草も砂もたくさん入り、水が緑色に…。ホストファザーに相談すると「タンクを洗わなきゃ」とのことで、どうするのかなと思ったら、中に人が入って洗ってくれて、タンクも水も綺麗になりましたが、事件も解決策も想像を超えていてさすがガーナ！と思わずにはいられない体験となりました。

活動では、赴任してすぐの6～9月はWHOによる5歳未満児へのマラリアの予防薬配布事業があり、私も同僚について回って手伝いました。任地には住所はなく英語の識字率も高くないため、1週間前か



(啓発に村に向かう道がひどすぎて記念撮影。笑)



(CHO研修で地域ボランティアとの話し合い)

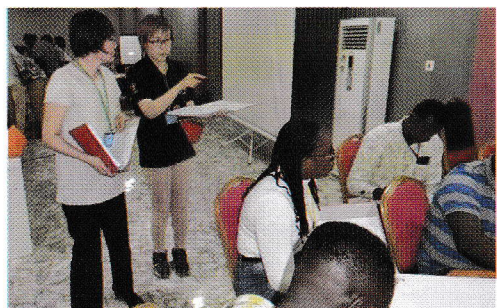


(精神保健啓発にFMラジオにも出演しました!)

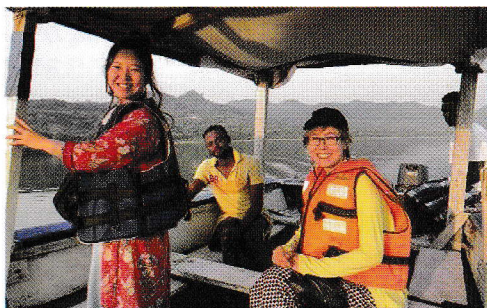
ら車にスピーカーをつけて現地語と英語で録音されたメッセージを、朝夕5時から8時まで、ドライバーと啓発担当が村々を流して回ります。昼間は各村のボランティアに配布の仕方を説明して回り、配布が始まると全職員がコミュニティに出て服薬の様子を確認するというハードスケジュール。意気込んで啓発からすべてついて回っていたら、配布4日目で40度の発熱。マラリアだったらシャレにならん…と心配しましたが、自己テストではマイナスで胸をなでおろしたのでした。

私が配属されているガーナヘルスサービス (Ghana Health Service : GHS) は簡易診療・妊婦健診・日本で言う地域保健活動のすべてを担うCHPS

(Community-based Health Planning and Service 通称：チップス) をもち、それを統括しているのが私の職場の保健局です。土日は休みですが、マラリア薬配布のような事業が入れば土曜も仕事になります。そんな職場も少し暇になるのがクリスマス～年始の期間。思い切ってお休みを頂いて、他の隊員の任地に遊びに行きました！私の任地は乾季で、見渡す限り茶色。湿度も一桁で呼吸するたびに喉が痛みます。南の任地は緑と土のにおいがして、湿度があって、もうそれだけで夢のようでした～。おいしいパイナップルを丸かじりしたり、海を見たり、しっかりリフレッシュできたので、2020年も飛ばし過ぎない程度に頑張りたいと思います！



(CHPSで働くCHO (Community Health Officer : 保健師の準看みたいな職種) 養成研修。JICAの専門家と受講生の話し合いを見えています)



(国内旅行で湖へ)



(芯まで甘いパイナップルの丸かじり!)

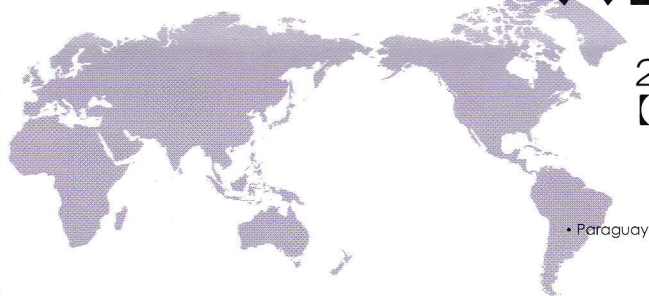
『パラグアイでマテ茶を』

2018年度4次隊

【派遣期間：2019年4月～2021年4月】

パラグアイ・看護師

濱 渦 華 子 (大分市出身)



2018年度4次隊、看護師としてパラグアイに派遣されている濱渦華子です。私の任地は人口約4400人ほどの田舎の小さい町です。道路のほとんどが石で埋められたガタガタの道で、牛や馬が自由に散歩しているようなのかな所です。住民はほとんどが顔見知りで、すれ違うたびに挨拶を交わします。私の配属先は家族保健ユニットといって同僚が20名ほど在籍する、町にひとつしかない診療所です。主

な活動は、同僚と一緒に診療所に来る患者さんに対して、高血圧や糖尿病など疾患の基礎知識や予防方法に関する講習会を行ったり、学校に出向いて子どもたちに性教育や手洗い、歯磨き指導などを行い、若年妊娠や病気の予防知識の普及を行っています。この任地で感じたことは、住民の人々が幸せに暮らしているということです。町にはスーパーマーケットもレストランもありませんし、町の人々は休みの



(高血圧糖尿病クラブにて体操指導)



(ダンス教室)



(一歳の女の子のお誕生日会)



(コスタリカにある別府地獄温泉に似ていた温泉)

日に他の町に出かけるということもほとんどしていませんが、家族との時間を大切にしている、暑い日には冷たいマテ茶を飲み交わしながら家族や友人とお喋りをしてゆっくりとした時間を過ごしています。このマテ茶を飲み交わす時間は任地で過ごす私の好きな時間です。また誕生日には必ずパーティーを開き、知り合いの人にお菓子を振る舞って人とのつながりを大切にしています。任地の人たちにとって、たくさん食べてゆっくりと時間を過ごすことが幸せなのですが、いつも食べ過ぎてしまい、かつ運動をほとんどせず座って過ごしていることが多いので、少しでも運動をしてもらえるように最近ではダンス

教室を行って住民の人々と一緒に汗を流しています。日常生活では家の中にアリの巣ができたり、雨が降り続くとすぐにカバンにカビが生えたり、なかなか日本では体験できない生活をしているのですが、週末には隊員仲間とパラグアイ国内を旅行したりしてリフレッシュしています。任国外旅行では中米コスタリカへ。コスタリカには火山や温泉が豊富にあり、その中には別府の地獄温泉に似ている温泉があったため、大分を思い出したりといろんな発見がありました。パラグアイには世界に知られているような有名な観光地はありませんが、住民の人々の幸せな時間がたくさん詰まった、のどかで落ち着いたところです。

大分県JICA海外協力隊家族連絡会が 開催されました

2019年9月8日(日)、ホルトホール大分にてJICA(独立行政法人国際協力機構)九州センター並びに大分県青年海外協力協会共催の『JICA海外協力隊家族連絡会』が開催されました。

これは、世界各地で活動中の大分県出身現役隊員から、テレビ電話や予め隊員に準備してもらった手紙を通じて、現地での生活の様子を日本で待っているご家族へ伝えてもらい、ご家族同士でその想いを共有するという大変貴重な場となっています。



今年度は、小翠香織 OG(2016年度2次隊ブータン派遣/医療機器)、井本望 国際協力推進員(平成26年度1次隊セントルシア/青少年活動)、福島由見子 JICA国内協力員(平成25年度1次隊ラオス/家畜飼育)からの海外協力隊活動報告も行われました。また、大分県企画振興部国際政策課 藤井氏より『大分県の国際交流と国際協力の取り組み』、JICA九州センター 市民協力課 片岡氏、進路相談カウンセラー 有里氏よりそれぞれ『協力隊員への支援体制』『帰国後の進路支援』についてご家族の皆様へお話しいただきました。

ご家族からは、「今はSNSもあるのに、全然連絡がつかないから元気なのか心配していた」「うちは、いつも連絡が取れているので安心している。自分も退職したら行ってみたくなった」「もうすぐ任期を終えて帰ってくるが、次の就職先は海外に決まっているようだ。なかなか落ち着かない」といった声が聞かれました。

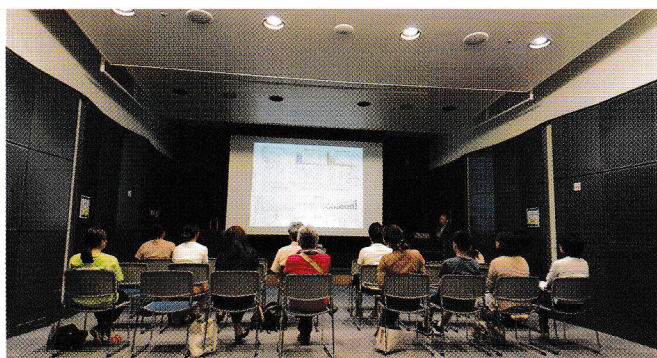
JICA海外協力隊説明会& 応募相談会で OB体験談発表しました

2019年9月14日(土) iichiko総合文化センターにて、JICA九州(デスク大分)主催の『JICA海外協力隊説明会・応募相談会』が開催されました。

これは、海外協力隊秋募集の応募期間に合わせて行われたもので、大分県青年海外協力協会からは渡辺了孔OG(平成19年度派遣 モンゴル/視聴覚教育)、羽田野直子OG(2016年度2次隊モザンビーク/青少年活動)がそれぞれ協力隊の活動について体験談を発表しました。また、大分県出身で現在アフリカ各国で活躍されている坪井達史JICA専門家(昭和50年度派遣 フィリピン/稲作)も登壇され、『アフリカにおける日本の稲作支援に携わっているコミュニティ開発隊員について』と題し、長年の専門家としての活動発表やシニア海外協力隊応募希望

者に向けてのアドバイスをされました。

発表後のグループ座談会では、参加者から「活動のことがよく分かった」「私達の“普通”が普通でなくて、活動するにも根気があることが分かった」「日本と違って楽しそうで益々行ってみたくなった」等の感想が挙がりました。さらに、「応募を考えているけど、派遣される国の治安は大丈夫なんだろう」「日本でももう少し経験を積んでから応募するのはと今応募するのはどちらがいいですか」「帰国後に大学院へ行こうと思っているけど、どう思いますか」「婚期が遅くなりませんか」等、具体的で真剣な質問が数多く飛び交い、OBは達成感を得ると共に参加者の熱い想いにエネルギーを吸い取られました。



おおいたワールドフェスタにブース出展しました

2019年10月26日(土) コンパルホールにて『おおいたワールドフェスタ〜世界を丸ごと楽しもう〜』が開催されました。これは、10月6日の『国際協力の日』にちなみ大分市とJICA九州が10月を『おおいた国際協力啓発月間』と定め、国際交流・国際協力を身近に感じてもらうために大分市が開催(JICA九州/大学コンソーシアムおおいた共催)し

ている、啓発期間中の目玉イベントで今年で14回目となります。

当日は、国際協力ブースにJICA九州、世界の料理ブースに大分県青年海外協力協会、ワークショップブースには市川敦子OG(平成10年度3次隊トンガ/理数科教師)が在籍するラボ教育センターが出展しました。



(ワールドフェスタ国際協力ブース)



(ワールドフェスタ料理ブース)

国際協力ブースでは、石和真紀子OG（平成8年度2次隊カンボジア／幼稚園教諭）、安部真理OG（平成21年度4次隊エクアドル／青少年活動）の協力により井本国際協力推進員とともに、SDGs（国際連合制定の持続可能な開発目標）のパネル展示や参加型アクティビティを行ない、お子さん連れの方が多く参加され大変賑わっていました。世界の料理ブースでは、織田真由美OG（平成25年度2次隊タイ／理学療法士）と高瀬会美OG（2016年度3次隊スリランカ／看護師）によるオーストラリア発祥の手作りアンザックビスケットとラオスコーヒーの販売や織田OGの派遣国でもあるタイの布やアクセサリーの販売も行われました。前日は長岡健朗OB（昭和63年度2次隊フィリピン／獣医師）が駆けつ



けて下さり、ビスケット作りを手伝われました。ワークショップブースでは、市川OGをリーダーとし、絵本の読み聞かせや工作等が行われ、子ども達のはしゃぐ声が部屋中に響いていました。

OBOGの皆様、来年は是非ご自身の派遣国にちなんだアイディアをお持ちいただき、一緒にブースを盛り上げていきましょう。またこの会報誌を読んで下さっている大分県の皆様も、是非本イベントへ一度足をお運びになってみることをお勧めします。ブースの他にもステージや日本語スピーチコンテスト等を通して、大分県内にこんなにも多くの活動的な外国人が住んでいることに気づき、きっと驚かれることでしょう。



(ワールドフェスタワークショップ)



ひじ産業文化まつりにブース出展しました

2019年11月3日(日) 日出町にて『ひじ産業文化まつり』が開催されました。

このイベントは、日出町の産業の発展を祈って毎年開かれているもので、主に地元産の野菜や果物などの販売、企業の展示ブースなどを行っています。今年度も、日出町在住の鈴木馨大分県青年海外協力協会会長（昭和61年度2次隊タンザニア／電話交換機）をはじめ、姫野美子OG（平成22年度2次隊ガーナ／PCインストラクター）、高瀬会美OG（2016年度3次隊スリランカ／看護師）らが参加し、青年海外協力隊ブースを出展しました。

ブースでは、海外協力隊のポスターやパネルの展示、海外協力隊のパフレット配布、鈴木会長が愛を込めて育てたみかんの販売、姫野さんが長年の活動の中で辿り着いたガーナ支援の形である“ビーズのキーホルダー”やプレスレット、ガーナチョコレートの販売が行われました。また、イベント景品としてJICAポストカードと文具のセットの提供も行いました。曇り空でやや肌寒い天候でしたが、朝から沢山の方が産直品を求めて行列を作っていました。

お客さんの中には、「知り合いがボランティアで派遣中」「子どもが興味を持っている」「自分も若い

頃に憧れていた…」などと声を掛けて下さる方も多く、いろいろな方のお話を聞くことができました。さらに、偶然にも協力隊OBが立ち寄って下さり、当協会には入っていないとのことでしたが懐かしそ

力隊



うにお話をされていました。

こうしたイベントで、また仲間の輪が増えるとうれしいですね。



ガーナ支援を続けて ～姫野美子OGの帰国後の支援の形～

ひじ産業文化まつりにて姫野美子OGがガーナ支援のため、ビーズのキーホルダーを販売していることは上述の通りです。ここで、姫野OGよりその活動の内容についてメッセージをいただいていますので、以下に紹介します。

「2010年10月から2年間、ガーナにPCインストラクターとして派遣され2012年に帰国してから、約8年が経とうとしています。帰国後に始めた派遣先近隣の小中学校生への就学支援も、同じ年月を数えます。地元の皆さんに声かけして寄付していただいた文具、靴、衣類などを奨学金とともに毎年ガーナへ届けています。

昨年、配属先の教え子だった生徒が、経済的に貧しい地域の学校の先生となり、自分の教え子たちに

ビーズのキーホルダーの作成方法を教え、その作品を町のマーケットで販売して子供たちの家庭の現金収入の足しにできるようになりました。

今回そのキーホルダーを私が買い取り、『ひじ産業文化まつり』にて販売しました。当該まつりでは、鈴木馨大分県青年海外協力協会会長を中心に、JICA海外協力隊の活動を紹介しつつ、協力協会会員が生産した農作物なども販売しています。この販売を通じて、日本から間接的にでも、ガーナの子どもたちが継続的に学校へ通える手伝いができる、という認知が広まっていけばよいな、と考えています。また現地ガーナにおいても、支援を受けて大人になった元生徒たちが後輩たちを支援する、そんな持続可能なくみを作っていきたいと思っています」

姫野美子（平成22年度2次隊ガーナ/PCインストラクター）



行事報告

2019年

9月	JICA海外協力隊派遣留守家族連絡会 <JICA九州との共催> (ホルトホール大分) 協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階)
	JICA海外協力隊説明会・応募相談会への協力 (iichiko総合文化センター) 2019年度 2 次隊 県庁表敬訪問・壮行会
10月	＜おおいた国際協力啓発月間＞ おおいたワールドフェスタ2019 ブース出展 (コンパルホール)
	協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階)
11月	2019年ひじ産業文化まつり ブース出展及びパネル展示 (日出町中央公民館)
	協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階) 2019年度 2 次隊 県庁表敬訪問・壮行会
12月	協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階)

2020年

1月	協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階) JICA海外協力隊全国説明会キャラバンへの協力 (ホルトホール大分)
2月	協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階)

※協力隊ナビとは？

毎月第 2 水曜日 18:00～20:00、iichiko総合文化センター 1 階で行なっているJICA海外協力隊員OBOGによる個別相談会です。予約は不要、無料で行なっています。お近くにお寄りの際は是非お立ち寄り下さい。懐かしいメンバーや未来の協力隊員達に会えるかも知れません。『海外協力隊』のノボリが目印です！

今後の行事予定

2020年

3月	協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階) 2019年度 3 次隊 県庁表敬訪問・出発隊員壮行会
4月	協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階) JICA海外協力隊募集説明会・応募相談会
5月	協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階) 2020年度 大分県青年海外協力協会総会・帰国報告会 (ホルトホール大分)
6月	協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階) 出前講座
7月	2020年度 1 次隊 県庁表敬訪問・壮行会 2020年度 大分県青年海外協力協会理事会 協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階) 出前講座
8月	七夕スターライトエクスプレス2020 JICAブース出展 協力隊ナビ (iichiko総合文化センター 1 階) ワールドフェスタinひた2020 出前講座

帰国隊員

※敬称略（シニア海外協力隊員含む）

2017年度 2 次隊

草野 和也 チリ・作業療法士（中津市）
出野 爽香 ペナン・助産師（日田市）
花木 壮介 ドミニカ共和国・卓球（竹田市）
小名川玲子 ウズベキスタン・美術（大分市）

2017年度 3 次隊

末廣 美和 カンボジア・看護師（中津市）
上田 啓介 マラウイ・障害児者支援（日田市）
三浦 洋明 ラオス・合気道（大分市）
的野 慶子 ペルー・水泳（別府市）



出野さん帰国写真
県庁にて帰国報告を行ないました



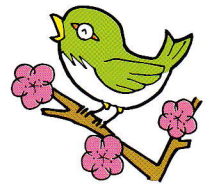
2019.11.25歓送迎会にて

派遣隊員

2019年度 2 次隊

後藤 佑真 エルサルバドル・作業療法士（大分市）
八丁 文子 中国・日本語教師（中津市）

県庁表敬訪問に訪れた、
（左から）後藤隊員、八丁隊員▶



JICA海外協力隊とは？

制度が変わりました

JICA海外協力隊は、国際協力機構（JICA）が実施する国の事業で、昭和40年の発足以来すでに88か国へ約40,000名の日本人青年が派遣されました。現在も1,700余名の隊員が世界70ヶ国にて、現地の人々と同じ言葉を話し一緒に生活しながら、開発途上国の国造りのために協力しています。

協力隊員の募集は、年2回春と秋に各地で説明会があった後、選考試験が行われます。

2019年度より、従来の『青年海外協力隊』から『JICA海外協力隊』へと呼称が変更になり、2020年度からは派遣時期も年4回から3回へと変更になりました。

「一般案件」にて派遣される隊員を20～45歳までは青年海外協力隊／日系社会青年海外協力隊、46～69歳までは海外協力隊／日系社会海外協力隊、「シニア案件」にて派遣される隊員をシニア海外協力隊／日系社会シニア海外協力隊と呼びます。『JICA海外協力隊』を派遣者の総称としています。

詳しくは大分県青年海外協力協会または国際協力機構九州国際センター（Tel093-671-6311）、大分県企画振興部国際交流室（Tel097-506-2129）、JICAデスク大分国際協力推進員井本望（Tel097-533-4021）、協力隊ナビへお問い合わせください。

大分県青年海外協力協会 会報

『ぶんごわ〜るど』

令和2年2月発行 第67号

発行：大分県青年海外協力協会

URL:<http://www.ooca.org/>

★皆さまのご意見・ご感想、お便りを
お待ちしております。

★会報では、『OB/OGは今？』のインタビューを受けて下さる方を募集しています。自薦他薦問いません。

〜いずれも問い合わせは上記URLまで〜

編集後記

今号も発行が少し遅くなったこととお詫び申し上げます。先日、仕事先のお宅で“金のなる木”（別名カゲツ）に花が咲いているのを見つけました。花は12～3月頃咲くらしいのですが、夏の間の水やりや冬場の保管場所等条件が揃っていないと中々花を咲かすのは難しいそうです。高齢者である家主さんも初めて見たそうで、花びらに感動しつつ、「最近の異常気象のお陰なのかしらね」と少々困惑気味でした。皆さんの周りの“金のなる木”は花を咲かせていませんか？お便り、お待ちしております。

2016年度 2 次隊 羽田野直子（モザンビーク・青少年活動）